

[ご報告]

日本マクロエンジニアリング学会シンポジウム 2016 ～海洋深層水活用による地方創生～

「海洋深層水活用による地方創生」をテーマにしたシンポジウムが2016年11月5日(土)に館山商工会議所にて、日本マクロエンジニアリング学会(JAMES)の主催、NPO 法人マクロエンジニアリング研究機構の共催、(株)デザインウォーターの協賛、及び館山市、館山商工会議所、西岬漁業協同組合の後援の下に開催されました。シンポジウムは下記プログラムに沿って行われ、環境保全を図りながら地域の生活・産業基盤構築を目指す具体策が紹介、あるいは提案されました。講演の概要は次の通りで、地元の参加者にはもちろん、各地からの参加者にとっても大変興味深いものでした。

講演1では、西村 NPO 日本公共利益研究所代表が、館山市の産業や人口の現況、地方創生戦略に基づいた地域活性化の取り組みの例を紹介され、地域固有の資源・魅力・価値、すなわち「地の利」を活用する必要性を訴えられました。

講演2では、海洋深層水利用学会高橋会長が、海洋深層水の資源性、個別およびカスケード(多段)利用方法について紹介され、事業性、雇用機会の創出、地域振興への効果、成功のポイント、及び館山の適性について、事例に基づき具体的に解説されました。

講演3では、株式会社 デザインウォーター 迹目(にげめ)会員が、館山における海洋深層水の事業性と、それらを踏まえた改良 OTEC の具体的な実証計画及びその規模、収支、手順・工程等、詳細な展開計画について発表がありました。(注、OTEC：海洋温度差発電)

講演の後の座談会では、OTEC、改良 OTEC、館山における海洋深層水産業の実現性、地域的な優位性、等々について活発で密度の濃い質疑応答が取り交わされました。

プログラム

日 時	平成 28 年 11 月 5 日(土) 13:30～16:30
場 所	館山商工会議所 大講堂
開会挨拶	角田 晋也 日本マクロエンジニアリング学会 企画委員長(海洋研究開発機構)
後援挨拶	杉井 繁樹 館山商工会議所 会頭
講演 1	館山市の地方創生と将来展望 西村 健 NPO 日本公共利益研究所 代表
講演 2	海洋深層水の活用と地域振興 高橋 正征 海洋深層水利用学会 会長 東京大学・高知大学名誉教授
講演 3	館山における海洋深層水事業 迹目 英正 株式会社 デザインウォーター 代表取締役
座談会	講演者及び会場の皆様
閉会挨拶	吉野 文雄 日本マクロエンジニアリング学会 会長(拓殖大学)

日本マクロエンジニアリング学会では、年次シンポジウムは会員のみ活動ではなく、社会の役に立つことを目的に、学会の外に向けた交流及びそのための広報の機会と位置付けております。館山市及び関連諸団体のご後援のもとで開催されたこの度のシンポジウムは、地元からの参加者も多く、質疑応答も真剣にかつ活発に行われ、趣旨にかなった有意義なものでした。本テーマにつきましては、今後とも会員有志により実現を目指して行くこととしています。

文責：迹目英正(海洋深層水利用学会会員、日本マクロエンジニアリング学会会員)



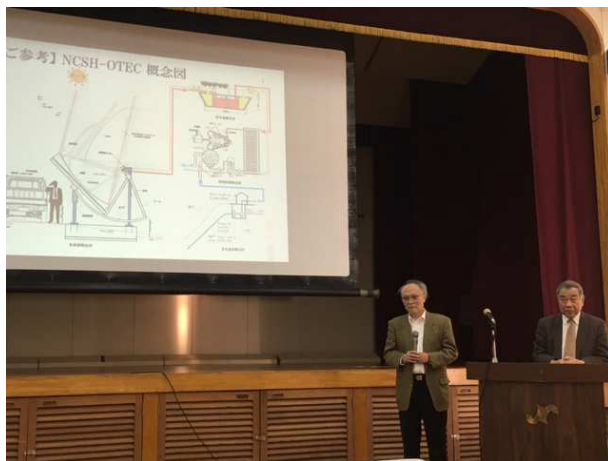
講演1 西村 健先生



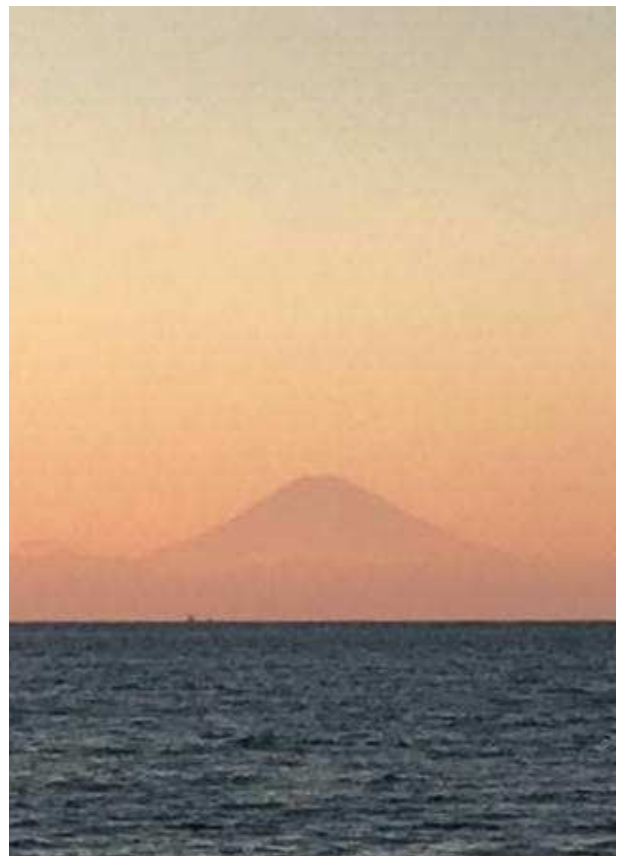
シンポジウムに先立ち、東京からの参加者は取水サイト（館山市伊戸）を視察しました。



講演2 高橋正征会長



講演3 (株)デザインウォーター社 代表取締役社長と質疑に
応えられる高橋会長



シンポジウム終了後の、館山商工会議所からの富士山の眺望。館山は自然に恵まれ、海の幸、山の幸を満喫した一日でした。

写真提供：田中新三氏、小野惣一氏

<ご紹介>

沿革 日本マクロエンジニアリング学会は、元外務大臣の大来佐武郎氏、 OECD 科学技術政策委員会議長(当時)の大島恵一氏、元東京大学総長茅誠司氏、日本学術会議会長(当時)の伏見康治氏、日本学士院(当時)の和達清夫氏らの肝煎りで1985年に創設された学術団体です。

事務局 〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学政経学部 茂木研究室
電話/FAX 03-3947-9204 E メール <hmotegi@ner.takushoku-u.ac.jp>